

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 19 年 11 月 22 日 (2007.11.22)

【公開番号】特開 2005-129047 (P2005-129047A)
 【公開日】平成 17 年 5 月 19 日 (2005.5.19)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-019
 【出願番号】特願 2004-299266 (P2004-299266)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 9/44 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 9/06 6 2 0 K

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 10 月 10 日 (2007.10.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

コンピューティングデバイスにおいて、コンピュータ可読な記憶メディアに含まれる命令により実行される、カスタマイズ済みのアプリケーションを起動するための方法であって、

アプリケーション ID を獲得するステップであって、該アプリケーション ID は、前記コンピューティングデバイスにより実行可能なアプリケーションを宣言的に識別する、獲得するステップと、

前記アプリケーション ID を解決するステップと、

前記アプリケーション ID のカスタマイズを形成するためのコンポーネントを探し出すステップであって、該コンポーネントは、前記アプリケーションに依存し、かつ同一の前記コンピューティングデバイスにおいて、前記アプリケーションに対して前記カスタマイズを与え、前記カスタマイズは、前記アプリケーション ID からの前記カスタマイズを別個に識別する展開 ID を含む、探し出すステップと、

前記コンポーネントを呼び出して、前記カスタマイズと前記展開 ID との関数として、前記カスタマイズ済みのアプリケーションを起動するステップと

を備えることを特徴とする方法。

【請求項 2】

コンピュータ可読な記憶メディアに含まれる命令により実行される、カスタマイズ済みのアプリケーションに関するポリーステートメントを実施するための方法であって、

前記カスタマイズ済みのアプリケーションのアプリケーション ID を定義するステップであって、前記カスタマイズ済みのアプリケーションは、元のアプリケーションにカスタマイズを与え、前記アプリケーション ID は、前記元のアプリケーションの依存関係グラフの中のパスを含み、該パス上のコンポーネント群のコンポーネント ID の順序付けされたリストとして表わされている、定義するステップと、

前記アプリケーション ID を使用して 1 つ以上のアプリケーションをポリーステートメントの対象範囲とするステップであって、該対象範囲とすることは、前記アプリケーション ID の各セグメントをバインドすること、および前記コンポーネントがサーバセマンティクスと同期しているかどうかを判定することを含む、対象範囲とするステップと

を備えることを特徴とする方法。

【請求項 3】

コンピュータ可読な記憶メディアに含まれる命令により実行される、カスタマイズ済みのアプリケーションを特定するための方法であって、

アプリケーション ID を前記カスタマイズ済みのアプリケーションに割り当てるステップであって、前記アプリケーション ID は、元のアプリケーションの依存関係グラフの中のパスを含み、該パス上のコンポーネント群のコンポーネント ID の順序付けされたリストとして表わされている、割り当てるステップと、

前記カスタマイズ済みのアプリケーションが実行されているコンテキストを特定するステップと、

実行されている前記カスタマイズ済みのアプリケーションの前記コンテキスト内から前記アプリケーション ID を獲得するステップと

を備えることを特徴とする方法。

【請求項 4】

コンピュータ可読な記憶メディアに含まれる命令により実行される、システムにインストール済みのアプリケーションを特定するための方法であって、

アプリケーション管理アプリケーションプログラミングインタフェース (API) を呼び出すステップと、

該 API から前記インストール済みのアプリケーションのアプリケーション ID を獲得するステップであって、前記インストール済みのアプリケーションは、元のアプリケーションおよび展開を含み、前記インストール済みのアプリケーションの前記アプリケーション ID は、開発者用の情報と、公開キートークンと、バージョン情報と、プロセッサアーキテクチャ情報とのうち、少なくとも 1 つの完全な ID を含む、獲得するステップと

を備え、前記元のアプリケーションの前記公開キートークンと、前記展開の前記公開キートークンとは同一であることを特徴とする方法。

【請求項 5】

コンピュータ可読な記憶メディアに含まれる命令により実行される、システムにインストールされたアプリケーションをカスタマイズするための方法であって、

すべての構成コンポーネントの内容を含む展開マニフェストデータ構造を定義するステップと、

該展開マニフェストを前記アプリケーションに関連付けるステップと、

マージされたアプリケーションマニフェストを構成するために、前記展開マニフェスト内のカスタマイズデータを指定するステップであって、前記マージされたアプリケーションマニフェストは、いずれのコンポーネント束縛ポリシーも考慮せず、かついずれの外部 / 前提条件の依存関係も考慮しない、前記展開マニフェストデータ構造の集約である、指定するステップと

を備えることを特徴とする方法。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の方法において、

前記アプリケーションのビットは不変に保たれることを特徴とする方法。

【請求項 7】

請求項 5 に記載の方法において、

前記アプリケーションはカスタマイズ済みのアプリケーションであることを特徴とする方法。

【請求項 8】

請求項 7 に記載の方法において、

前記アプリケーションのビットは不変に保たれることを特徴とする方法。